

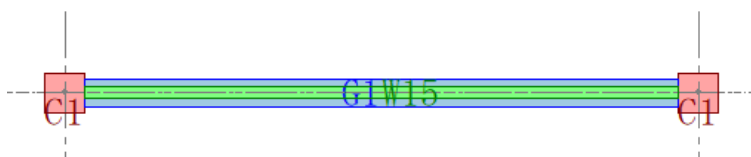
腰壁や手摺壁の上に、垂れ壁（下がり壁）がある時

同一通り芯上の上部と下部に、壁がある場合の壁の配置方法について説明します。

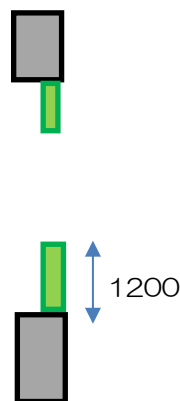
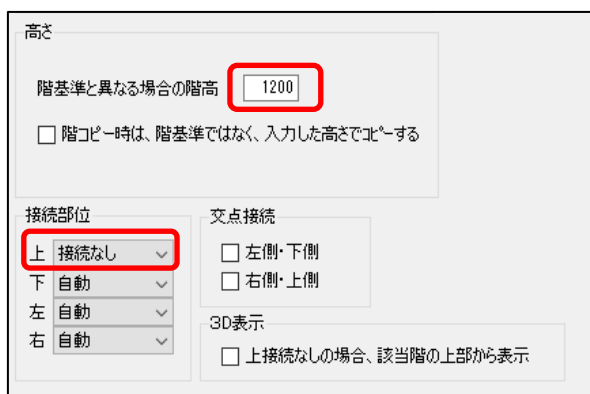


同一の通り芯上には、壁は1枚しか配置できないため、2つ目の壁は少しずらした位置に配置し、同じ通り芯上にあるように見せかけるという方法になります。

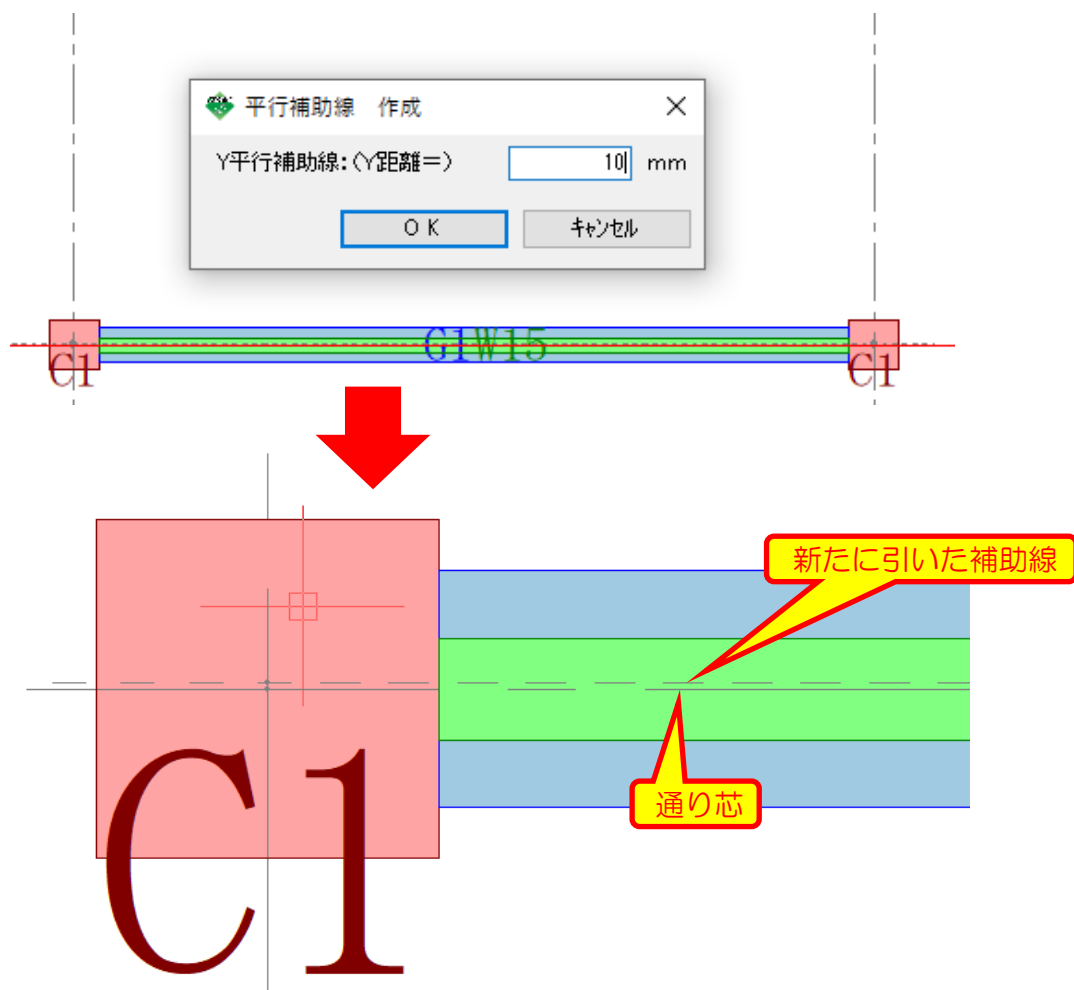
1. まず、腰壁や手摺壁を配置します。



2. 配置した壁のプロパティで、「階基準と異なる場合の階高」に立上り寸法を入力、「接続部位」の上を「接続なし」に設定します。

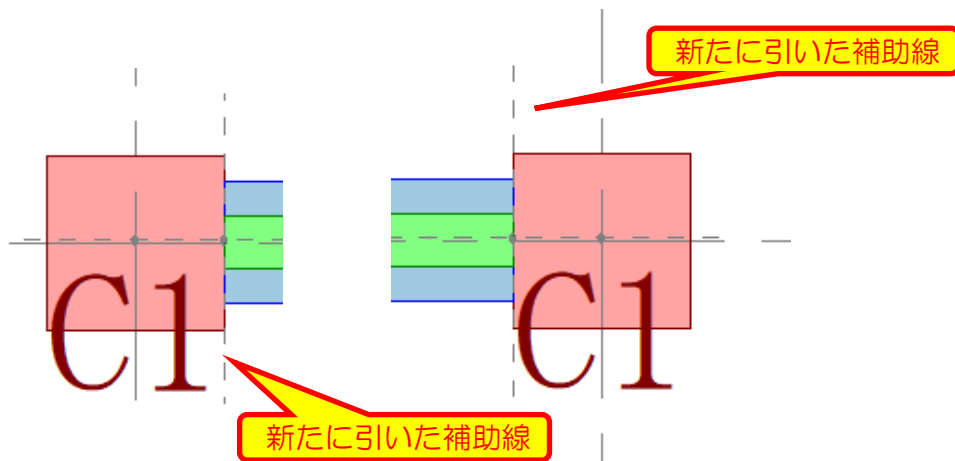


3. 通り芯より、10mmほどずらした位置に、新たに補助線を引きます。

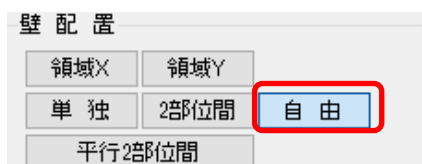


4. 補助線上に、下がり壁を「自由配置」で配置します。

①柱面と同じ位置に新たに補助線を引きます。



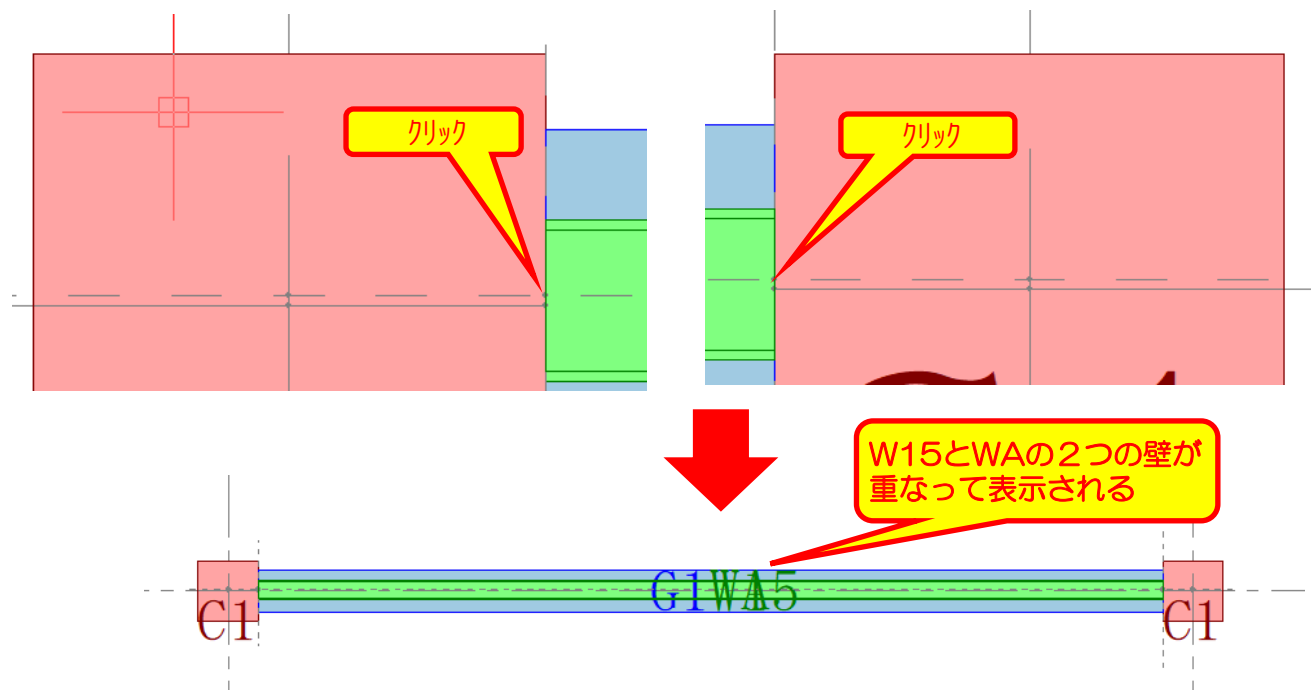
②下がり壁の記号を選択し、壁配置で「自由」を選択



③2つの補助線の交点をクリックして下がり壁を配置します。

(左側)

(右側)

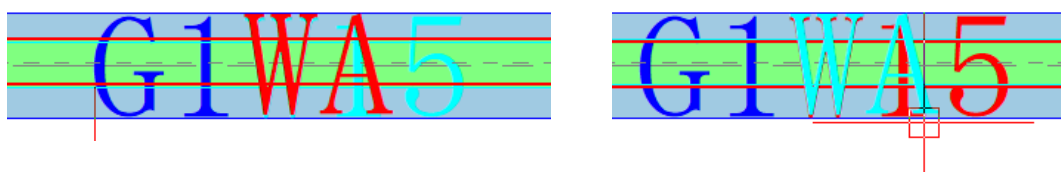


5. 下がり壁のプロパティ画面で、高さや接続状態を設定します。

①記号が重なっているため、画面上部に「候補があります」と表示されます。

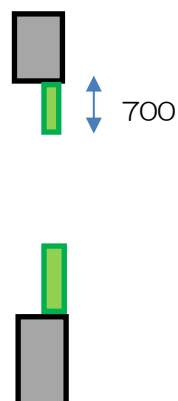


②クリックするたびに対象の記号が赤く強調表示されるので、該当記号が赤くなったら「右クリック」で確定します。



③「階基準と異なる場合の階高」に下がり壁の高さを入力し、接続部位は全て設定します。

高さ	
階基準と異なる場合の階高	<input type="text" value="700"/>
<input type="checkbox"/> 階コピー時は、階基準ではなく、入力した高さでコピーする	
接続部位	交点接続
上 大梁	<input type="checkbox"/> 左側・下側
下 接続なし	<input type="checkbox"/> 右側・上側
左 柱・梁	3D表示
右 柱・梁	<input type="checkbox"/> 上接続なしの場合、該当階の上部から表示



※上記で配置した下がり壁は、柱や梁を配置した通り芯とは、別の補助線上に配置しているため、左右の柱や上の梁に接続しない宙に浮いた壁として配置されています。従って、鉄筋を定着させる目的で、左右や上に接続部位があるという設定にする必要があります。